

カスタムビューパック導入に伴う効果

斎藤 恵子, 佐藤 貴子

手術中央材料室

Key Words :

CVP・カスタムビューパック・業務改善

要 旨

当院において、手術症例件数が増加し、特に白内障手術件数が増加したため、眼科手術日には効率良い看護業務を行えなくなった。そのため、テーブル作成時間の短縮を目的に眼科用カスタムビューパック（CVP）を導入した。導入の結果、手術室経験年数に関係なくテーブル作成業務時間が 1/2 に削減され、3名で行っていたテーブル作成業務を 1 名で行えるようになった。また、滅菌物品管理時間の削減・物品収集時間の削減・テーブル展開作業を医師へ移行など、様々な効果を得られた。現在では他に 7 種類の CVP を導入し、全手術症例中90%で CVP を使用している。看護業務の効率が高まり、術後訪問など本来の看護業務に専念することや、クリティカルパス作成に充てることができ、CVP 導入は有効であったため、若干の考察を加えて報告する。

はじめに

医療の進歩に伴い、複雑化する手術や手術症例数が増加し、管理物品の増加、手術に使用する物品準備に時間を有し、手術部における看護業務は増大している。また、高齢化社会に伴い、白内障手術も増加している。

当院手術部は、5 室を有し、看護職員は科長 1 名、係長 2 名を含む看護職員15名、看護助手 2 名で構成されている。平成11年の総手術症例件数（図 1）は 1221 例に対し、平成15年は2005例と増加し、眼科手術症例件数は、平成11年の82例に対し、平成15年は 366 例と飛躍的に増加している。（図 2）

白内障手術件数が 1 日 2 件前後から 1 日10件前後と増加し、手術テーブル作成業務や、必要な滅菌物

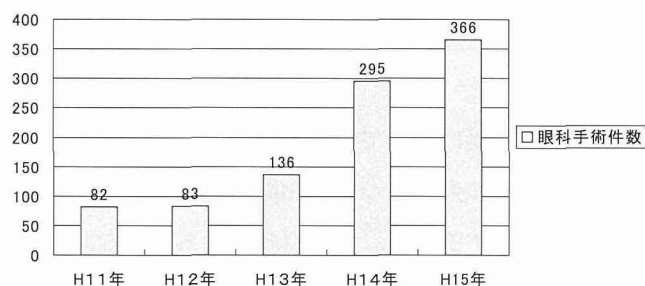


図 2 眼科手術件数

収集に多大な時間を要するようになり、効率良く看護業務を行えなくなった。そこで、作成時間の短縮を目的にカスタムビューパック（以下 CVP とする。）を導入した。その効果をここに報告する。

目 的

1. 手術テーブル作成時間の短縮
2. 必要滅菌物収集時間の短縮

方 法

CVP 導入前と導入後のテーブル作成時間を測定した。

結 果

超音波乳化吸引・眼内レンズ挿入術は、患者 1 人

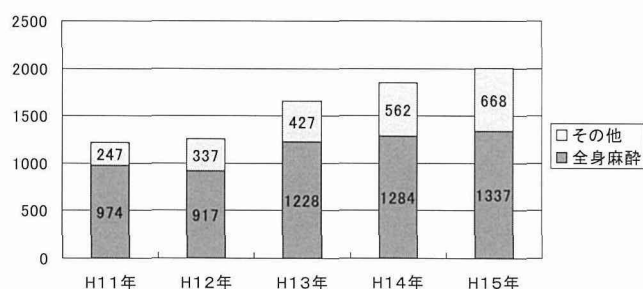


図 1 過去 5 年間の手術件数

の手術時間が約6分、手術終了から次の患者の手術開始までが約15分。その15分の間に患者を送り出し、迎え入れて、すぐに手術を開始できるように、テーブルを展開しなければならなかった。

当院では2名の看護師をテーブル作成業務に割り当て、午前中にクリーンホールに入り、前日に集められた滅菌物を用いて、その日に行われる全手術のテーブル作成を行っていた。また、その日の眼科手術担当看護師が手術開始30分前より手洗いをを行い、即座に手術を開始できるようにテーブル展開を行っていた。しかし、白内障手術症例件数が増加して以来、眼科手術日には更に1名の看護師をテーブル作成業務に追加しなければテーブル展開までに間に合わない状況となった。また、3名がテーブル作成業務に拘束されることで、他の看護業務が円滑に進まず、支障を来すようになった。

そこで、既製 CVP のサンプルを取り寄せ、当院における白内障手術時の必要物品と比較し、品目内容を検討した。現在使用の物を基本に組み込むことを要望し検討を重ね、当院独自の眼科用 CVP を作成した。

1) 手術テーブル作成時間の短縮

CVP を導入しテーブル作成を行ったところ、眼科テーブル1件の作成時間が手術室経験年数10年目看護師は6分10秒に対し、導入後は3分7秒。3年目看護師は6分30秒に対し、3分21秒。6ヶ月目看護師は9分3秒に対し、4分32秒と、約1/2の時間に削減され手術件数が10件の時は計30分から40分の時間削減となり、眼科手術日には3名で行っていた手術テーブル作成業務が1名に削減できた。(図3)

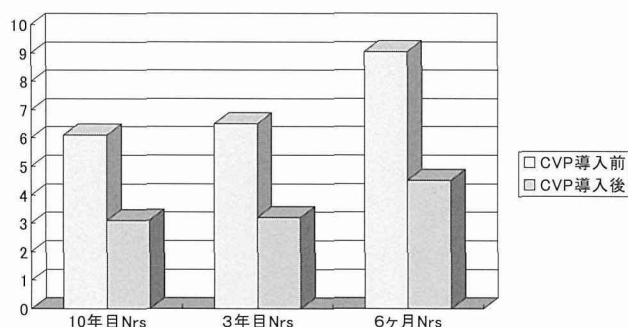


図3 CVP 導入前後の作成時間

2) 滅菌物品管理時間の削減

以前のテーブル作成においては、全て単包に滅菌された物品を1つずつテーブルに出していたため、

単包物品が多く、滅菌期限や袋の破損など数多くの物を確認しなければならなかった。CVP 導入後は単包物品の数が減少され、物品管理時間も削減できた。

3) 物品収集時間の削減

当手術部では、手術前日に1名の看護師が翌日行なわれる手術に必要な滅菌物を1つのかごに収集する業務を行なっている。CVP 導入前は25種類の単包滅菌物を収集していた。導入後は CVP の他に8種類の単包滅菌物を収集するのみとなり、必要滅菌物収集時間が大幅に削減でき、現在では、看護助手に依頼できるようになった。

4) テーブル展開時間の削減

CVP 導入を機に看護業務の見直しを積極的に行い、その一環として、医師に手術前のテーブル展開を依頼したところ協力を得られ、テーブル展開作業は全面的に医師に移行した。以前は手術30分前から看護師が1名テーブル展開のために時間を拘束されていたが、現在では約15分の手術入れ替え時間に次の使用テーブルを医師が展開している。

考 察

CVP 導入前のテーブル作成は滅菌テーブルカバー上に25種類の単包滅菌物を、袋の破損がないか確認しながら清潔鉗子を用いて1つ1つ滅菌テーブルに出していた。そのため、短時間で作成するためには熟練した技が必要だった。しかし、今回テーブル作成時間を測定したところ、経験年数に差がなく約1/2に時間削減されている。これは、CVP は17種類の滅菌材料があらかじめテーブルカバーで包まれた状態という利便性があり、容易な滅菌テーブルの展開が可能になったためと思われる。

以前、眼科手術日には3名で行なっていた手術テーブル作成業務を1名に削減できたのは、眼科 CVP 導入を機に他7種類の CVP を導入し、全手術症例中90%で CVP を使用しているためと考える。

また、CVP 導入にあたり、滅菌物品管理時間の削減、物品収集時間の削減に顕著な効果が現れたのは、CVP 使用率が90%と高値であるためと思われる。更に、CVP を導入したことで医師や看護助手へ委託できる業務を整理するきっかけにもなったと思う。

これらにより、削減できた時間を術後訪問など本来

の看護業務に専念することや、クリティカルパス作成に充てることができ、CVP 導入は有効であったと考える。また、看護業務の効率を高めるためには、CVP 導入と共に、CVP 使用率を高めることも有効であると考ええる。

おわりに

日々進歩する医療の中、手術に使用する物品も変化している。また、医師の転勤などによる物品の変化もある。そのため、CVP 品目も、使用しなくなった物品は排除し、必要な物品は取り込むなど常に検討し、医療環境の変化に対応していきたいと思う。

参考文献

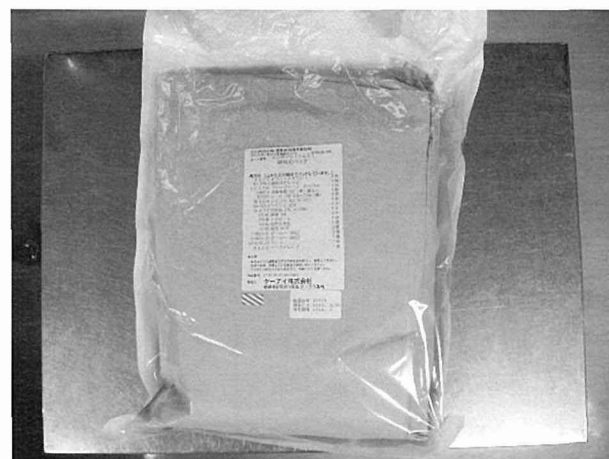
- 1) 因幡美津子、高松純：カスタムビューパック導入による効果。日本病院会雑誌、vol.46 No.3 1999
- 2) 久保田由美子：カスタムパックの導入検討。第11回医用器材研究会、1998



【現在の物品・8品目】



【以前の物品・25品目】



❖ テーブルカバー	1	❖ 27G 針	1
❖ 術衣	2	❖ シリンジ 1 ml	1
❖ 眼科用ドレープ	1	❖ シリンジ 2 ml	1
❖ ビーカー大	1	❖ 綿棒	3
❖ ビーカー小	2	❖ テガダーム	1
❖ 点眼ビン	1	❖ 洗眼ビン	1
❖ ヒーロン針	2	❖ 綿球	3

【眼科用 CVP ・品目】